

令和元年度事業所訪問について(上半期)

男女平等オンブッドの事業所訪問は、令和元年9月で224事業所となりました。年間20事業所を訪問するという計画を立て、事業所における男女共同参画について状況把握をすると共に、女性の就業分野拡大、役職登用、育児・介護休業制度の活用等について周知啓発を行うこととしています。

この間、様々な事業所の担当者の方と面談する中で、トップの考え方で労働者の働く意欲が変わり、組織が変わり、結果として企業が変わることを実感しました。また、越前市に本社機能を有する中小企業等も多く、その企業においては、努力義務にも関わらず、一般事業主行動計画の策定や管理職として働いている女性も多々見受けられました。

こうした中、オンブッドとして「越前市輝く女性活躍応援団」の設立要請を市に行き、昨年12月11日に市内126事業所の賛同を得て設立・行動宣言を行いました。男性リーダーに限定せず、事業所のトップが、女性活躍推進に関する自らの思いや企業の取り組み内容を**主体的に**公表・発信し、またネットワークを広げることによって、働き方改革や女性の活躍を応援する事業所として、企業のイメージアップも図りながら、取り組みを推進していただく応援団です。

今後とも、この「越前市輝く女性活躍応援団」への賛同を推進しながら、事業所訪問を行っていきます。

国においては、平成30年7月に、長時間労働の是正、多様で柔軟な働き方の実現等、労働者がそれぞれの事情に応じた働き方を選択できる社会を目指すとする、働き方改革関連法が公布されました。当市においても市長を本部長とする働き方改革推進本部が設置され、検討が重ねられています。働き方改革の取り組みは、我が国の雇用の約7割を占める中小企業・小規模事業者においても着実に推進することが必要であり、当市も例外ではありません。

上半期に訪問した事業所は、10事業所です。株式会社が5事業所、個人経営が2事業所、女性起業者が3事業所でした。規模については、労働者数200人以上の事業所が1件、100人から200人未満が2件、50人から100人未満が1件、50人未満が6件でした。その中で、越前市輝く女性活躍応援団への賛同は、6事業所からいただきました。

訪問しての全体的な感想としては、女性労働者の管理職の地位にある女性が依然として少ない状況にあることです。しかし、働き方改革に率先して取り組んでいる事業所も見受けられ、定年後も65歳・70歳まで再雇用として働き続ける労働者が増加しています。また、女性起業者については、これからの期待したい印象を受けました。

なお、訪問にあたっては、訪問の趣旨を説明し理解を求めるとともに、この訪問が事業所にとってメリットとなるよう、参考になると思える情報の提供や

雇用管理上の助言等に努めました。男女共同参画センターが実施している出前講座の活用についても資料を手渡し紹介しました。

どの事業所も協力的であったことに感謝しています。

* 各事業所の状況、感想等について

- ・女性起業者として、開店したことに後悔はないが、あまりにも人の往来が少ないのに驚いている。また、以前とは、蔵の辻でのイベントも少なく、駐車場も分かりにくいので、蔵の辻の入り口に全体案内図の看板があるとよいのにと話された。そして、マスコミへの働きかけ等、まちづくり武生株式会社に頑張っしてほしいと力説された。
- ・定年は設けてあるが、働き続けられるまで働ける事業所である。
- ・女性の管理職登用に関しては、縫製のプロに管理職をと言っても、縫製ならできて管理職となるとパソコン等ができないので断わる人もいると話された。
- ・働き方改革に率先して取り組んでいる事業所である。
- ・新卒者を採用したいが、今年度も3人募集で誰もなかったと話された。誰も採用できない年があると、会社としては、長い目で見て大変であると苦笑されていた。
- ・女性の管理職については8/101と約8%であるが、管理職に女性がいることが重要で、今後も増やしてほしいと願う。
- ・働き方改革として、以前から、1人で仕事を抱えないこととし、土・日は営業をしない方針は特筆すべき事項である。
- ・今年は、女性活躍応援団の加入のために事業所訪問をするのだが、訪問前に賛同の申出があった会社もあった。
- ・求人募集について、ハローワークでは、見つからない時があり困るので、リクルートなどの有料サイトを使っていると聞き、ここまでインターネットの時代になっているのかと驚いた。
- ・育休後に、正職員からパートになる職員がいるのは残念だが、土日勤務・泊まり等があるとどうしてもそういう選択をせざるを得ない面もあるのだろう。しかし、パートから職員に復帰できる道はあるとの事で、落ち着いてから正職に復帰する人もいると聞き、働き方改革の一環と考えられる。
- ・研修生が主力で成り立っている事業所は珍しいと思うが、縫製業においては、従業員の高齢化・募集しても人員が確保できないと言う時代の流れだろうか。
- ・女性起業者の話として、2児の母で、産休・育休時も研究をする必要があり、子育てをしながらの仕事で、頼るところのないことを実感した。子どもを連れて働けるスペースがあればと実感し、この場所を作った。また、「暮らすように働く」をメインに設立し、「まちなかにさまざまな人が出会い、まじわり、つどう場が欲しい」という思いで設立したと話され、印象に残った。